

## 11 医師会員として、勤務医として、勤務医不足の改善を考える

内山 政二

新潟県医師会理事

国立西新潟中央病院統括診療部長

## Poor Working Condition of Physicians — How to improve

Seiji UCHIYAMA

*Board member of Medical Association of Niigata Prefecture**Director of Nishi - Niigata Chuo Hospital*

## 要 旨

勤務医不足は医療政策や種々の社会情勢に関連した大きな問題であるが、我々の努力で改善できる点もある。

勤務医が燃え尽きずに長く勤務できるために、地域で出来ることとして救急輸番や急患センターの設置、開業医による病院当直や病院での外来診療がある。平成19年度は県医師会のへき地医師ショートサポートが立ち上がる予定である。病院がやるべきことは医師が診療に集中できる環境づくりであり、医療秘書の充実、使い易いIT化、トラブル時の組織としての対応がある。院内の医師同士の連携も互いの負担を軽減させる。病院管理者には勤務医のやる気を削がない配慮が求められる。医師個人で出来ることとしてプロ意識を持った仕事量の調整、当直開けなどは休める人から休む“先休論”の実践がある。全ての病院に通用する処方箋はないが、その施設で出来ることから始めることが改善に繋がる。

医師といえども個人は無力である。勤務医問題の改善のためにも、勤務医の医師会活動へのさらなる参加が強く望まれる。

キーワード：医師の労働環境, 改善案

## 勤務医問題は医療界全体の問題 (図)

勤務医の“立ち去り”が医療界全体に大きな影響を及ぼしている<sup>1)</sup>。医師に去られた病院はレベルダウンし、手術ができなくなったところもある。残った医師はさらに過重労働となり、医療事故すら危惧されている。医師の補充ができずに、規模

縮小や閉鎖の危機に直面している病院もある。大学は勤務医の開業後の補充に追われて手薄になり、先端医療や教育にも支障が出ている。開業医にとっても、大量の開業予備軍である勤務医の動向は対岸の火事ではない。このように勤務医問題は医療全体の危機とも言える状況になっている<sup>2)</sup>。

Reprint requests to: Seiji UCHIYAMA

Nishi - Niigata Chuo Hospital

1 - 14 - 1 Masago Nishi - ku,

Niigata 950 - 2085 Japan

別刷請求先：〒950-2085 新潟市西区真砂1-14-1

国立西新潟中央病院

内山 政二

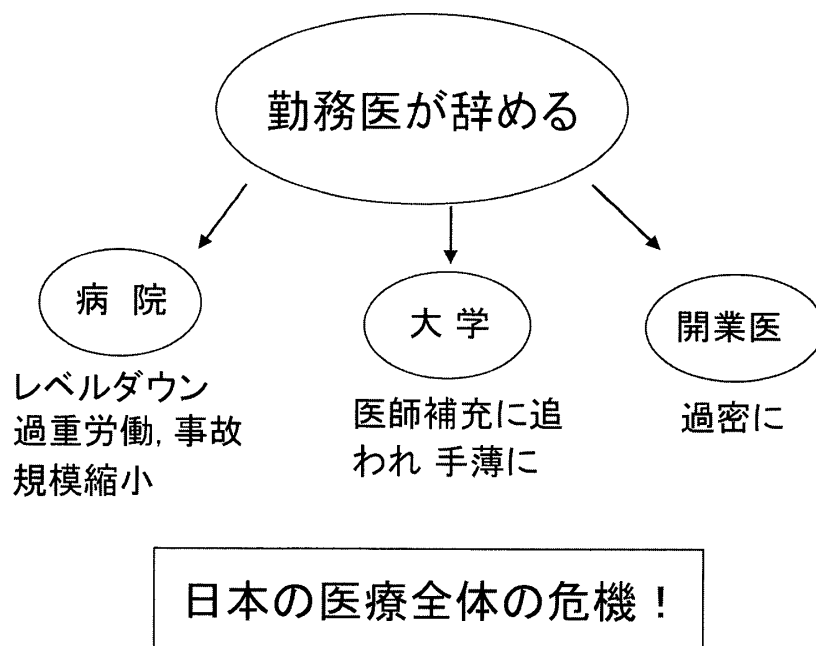


図 勤務医問題の医療界への波及

### 本県の勤務医は増加，大学は医師減

1996年に比して、2004年で勤務医は113%と全国並みに増加していた<sup>3)</sup>。しかし本県の勤務医数はもともと全国最下位に近いため、充足には程遠い状態である。さらに業務量の増加と専門分化が医師不足感をいっそう強くしている。

本県の医師数でもう一点重要なことは、大学の臨床医がこの期間に84%に減少したことである。これは勤務医が辞めた後、大学からどんどん医師を派遣してきた結果である。全国平均ではこの期間に大学医師が106%に増加し、医師出し渋りといわれている県もあるが、新潟大学は勤務医補充のために我が身を削っている状況にあると思われる。

### 勤務医不足改善のための具体案（表）

本県の医師不足は医療関係者の努力だけでは解決できない問題である。その改善のために様々な施策や提言がなされている<sup>4)5)</sup>。勤務医不足に対

表 勤務医不足改善のための具体案

1.Inを増やす	＝地域づくり，魅力のアピールはマスコミに学べ その他は文献4，5参照
2.Outを減らす	＝勤務医が辞めない環境づくり
1)地域で	－ 救急輪番，急患センターの設置 開業医の病院当直と病院外来 ショートサポートバンクの設置
2)病院で	－ 医師が診療に集中できる体制づくり グループ主治医，科を越えた連携 医師のやる気を削がない配慮
3)個人で	－ 仕事量の調整 先休論の実践

してはinを増やす努力とともに、医師が長く働けるように労働環境を改善してoutを減らすことも重要である。

## 1. Inを増やす

医師集めは地域づくりの一環である。地元の若者がどんどん出て行くところに医者よ来いというのもヤボな話であろう。医師を要請するなら地域の魅力をアピールする必要がある。新潟県人は自己アピールが苦手といわれるが、この点はマスコミに学ぶところが多い。高校野球の甲子園放送では、大都会も離島も、出場校とそのふるさとが実にうまく紹介されている。逆境を魅力として伝える手法は大いに参考になる。もし何も魅力を語れないなら、魅力の無さを相殺するだけの待遇が必要である。

## 2. Outを減らす

### 1) 地域で出来ること

救急輸番、あるいは医師会の急患センターの設置がある。さらに開業医による病院当直や、病院での外来診療も勤務医を支援するよい方策である。これらが行われている県内の地域では、勤務医は大いに助かっている。

新潟県医師会では県内の医師確保のためにドクターバンクを運営している。これに加えて平成19年度には県の補助を受け、へき地医師のショートサポートバンクを立ち上げることとなった。これは学会や休養時などの交替医さがしを医師会が窓口となって行うものであり、へき地で奮闘している医師の負担軽減が期待される。

### 2) 病院がやるべきこと

まず医師が診療に集中できる環境作りである。スポーツでは選手が試合に集中できなければ試合に勝てないのと同様、医師が診療に集中できなければ、よい医療は提供できない。具体的には医療秘書の充実、医師にとって使い勝手のよいIT化がある。これらにより説明や書類業務の負担が大幅に軽減される。また、種々のトラブルは組織で対応することが必須である。

院内の医師同士の連携はお互いの負担を軽減させる。グループ主治医はその1例であり、さらに進んで、医師が少ない病院では科を超えた連携も重要である。筆者自身は整形外科医であるが、手術では別の科の医師と相互応援をしている。

病院管理者には勤務医のやる気を削がないような配慮が求められる。自分たちの提案や要望に対する病院の対応によっては、やる気を削がれて立ち去っていく人も多い。結果的に要望が実現されなくとも、対応如何で立ち去りは減らすことが出来ると思われる。

### 3) 医師個人で出来ること

プロ意識を持った仕事量の調整である。これは仕事のレベルを落とさず、量を減らすことである。外来の予約化や無理のない手術スケジュールが挙げられる。医師という一生の仕事はマラソンであり、短距離走のようなペースでは燃え尽きてしまう。

次に勤務医が休むべき時に休めるように先休論を提唱する。これは中国の先富論、つまり豊かになれる人から先に豊かになろうという考えに倣ったもので、休める人から先に休もうということである。当直開けは休む、1日が無理なら半日もよい、そして休日は休む、夏休みはとることである。どうしても自分が休むことに抵抗があるなら、せめて後輩や、小さな子供のいる女性医師を休ませればよい。週休2日制の普及はまさに先休論の実践であった。それと同様、当直開けも休めるところから休み始めるしかないと思われる。

勤務医不足改善のために、全ての病院に通用する処方箋はない。へき地で孤立無援、年中無休で働いている人には休みなど無縁かもしれない。科によって温度差もある。しかし、その施設で出来ることから始めなければ事態は好転しないであろう。

## 勤務医自身のためにも医師会に結集を

医師という仕事は本来魅力的なはずである。グチを言い合っても始まらないし、暗い話しばかりでは医学部志望者まで減ってしまう。我々は個人では無力である。勤務医問題を改善し、今後もよい医療を提供するために、勤務医の医師会活動へのさらなる参加が強く望まれる。

## 文 献

- 1) 内山政二：破裂寸前，18万の開業予備軍．新潟県医師会報 No.648: 9-12, 2004.
- 2) 佐々木 繁：私もひとこと．日医ニュース．No.1083, 2006.
- 3) 厚生労働省：統計表データベースシステム．医師・歯科医師・薬剤師調査．  
http://www.dbtk.mhlw.go.jp/IPPAN/ippan/scm-k-Ichiran
- 4) 荒川正昭：三度（みたび）医師不足について．新潟県医師会報 No.670: 10-13, 2006.
- 5) 高橋榮明：新潟県の医師不足を考えるⅡ—医師不足対策には進学者の増加と特色ある臨床研修プログラムが期待される．新潟県医師会報 No.683: 7-11, 2007.

12 勤務医が勤務を辞めないために  
— 行政，住民・患者，マスコミ，司法に望むこと —

伊藤 正一

新潟県病院局参与

The Role of the Local Government, Patients, Mass Media and the Justice  
in Order to keep the Doctors work at the Hospital

Masakazu ITO

Consultant for the Bureau of the Prefectural Hospital

## 要 旨

勤務医が病院に定着するために，病院組織や管理者がなすべきことは多い．一方でこれらの内的要件のほか，外的要件として行政，住民・患者，マスコミ，司法の役割が無視できなくなっている．これらによる，医療への理解と協力が，意欲をもって勤務医を続けさせる基盤となる．

キーワード：勤務医，行政，住民，マスメディア，司法

## 勤務医を辞める理由

過酷な労働環境と勤務医としてのやりがいの喪失が勤務医を辞める大きな理由である．過酷な労働環境とは，超過勤務と休日・夜間呼び出しを含む拘束時間の長さ，代休がなくかつ専門外診療を余儀なくされる当直，勤務内容の緻密化，医療外業務の増加，さらに欠員補充不可による労働加重

別刷請求先：〒950-8570 新潟市中央区新光町4-1  
新潟県庁病院局 伊藤 正一

Reprint requests to: Masakazu ITO  
Prefectural Hospital Bureau  
Prefectural Office  
4-1 Shinko-cho Chuo-ku,  
Niigata 950-8570 Japan

別刷請求先：〒950-8570 新潟市中央区新光町4-1  
新潟県庁病院局 伊藤 正一